

2024年7月に実施された噴火湾沿岸の環境調査結果で、森（7/10, 7/26）、八雲（7/16）、虻田（7/2, 7/23）、伊達（7/4）の水温・塩分の観測結果をとりまとめました（本情報は函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>）。

【水温・塩分の鉛直分布と有害プランクトンの出現状況】

昨年と同様に7月後半の表層の水温は20℃を超えて24℃に達しています。8月以降も気温が高い傾向が予報されており、水温の上昇が見込まれます。

なお、カレニア・セリフォルミスやカレニア・ミキモトイなどホタテガイにとって有害な可能性がある赤潮プランクトンは検出されませんでした。

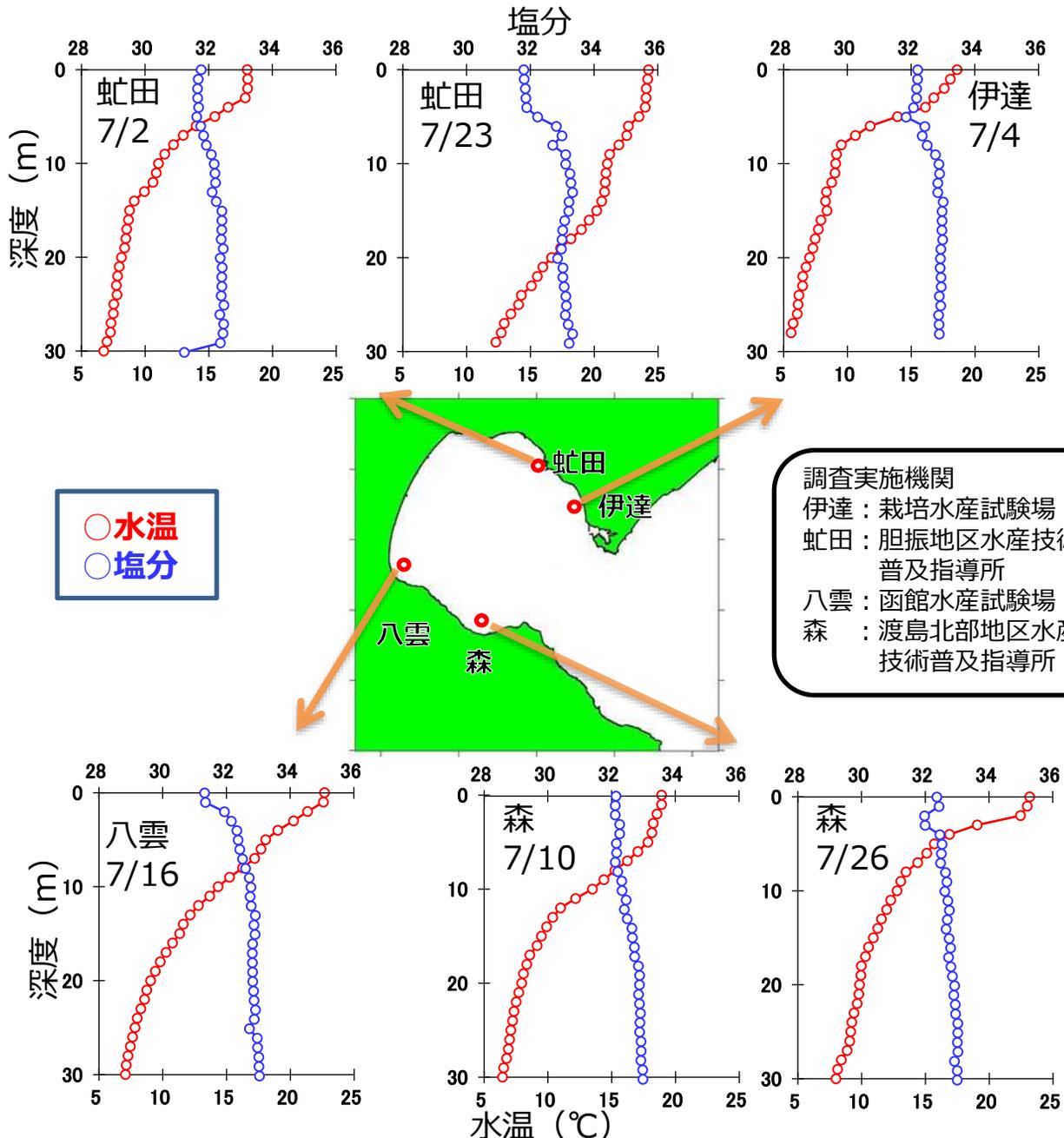


図1 噴火湾沿岸の水温・塩分の鉛直分布

※本調査の一部および情報配信は北海道はたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

【高水温のホタテガイ稚貝の生残や成長への影響について】

・ 気象庁は8月以降も気温が平年を上回る確率が高いと予報しており(図2)、今年も水温の上昇が見込まれます。

噴火湾産のホタテガイ稚貝では、

- ・ 25℃を超える海水で飼育されると死亡リスクが高まります。
- ・ 23℃を超える海水で飼育されると成長速度が小さくなります。

仮分散等の作業時に少しでも深い層の海水を使用するなど、稚貝が高い温度に曝される時間を少なくすることは有用です。

高水温になると、ホタテの成長が遅れるため、本分散の作業適期が遅くなることが予想されます。本分散が遅れることによる稚貝の成長の遅れや成育の悪化を低減するために、仮分散時の密度を低くすることは有用と考えられます。また、稚貝の垂下水深を少しでも深くすることによって、高水温のストレスを低減できると考えられます。



図2: 向こう1か月の天候の見通し北海道地方 (08/03~09/02)
気象庁HPより引用

※次回の情報は9月上旬を予定しています。8月末の調査結果を元に稚貝の成育に関連した環境情報を配信する予定です。